

和東町総合保健福祉施設整備に関する住民ワークショップの開催について

1. ワークショップの目的

- ◇「和東町総合保健福祉施設」の整備について、昨年度は基本的な方向付けの検討を進めてきた。
- ◇今年度は、この施設が住民の方々の誰にとっても利用しやすい施設であるために、住民の声や要望をお聞きする機会として、本ワークショップを開催するものである。

2. 参加者の募集方法と対象者数の想定

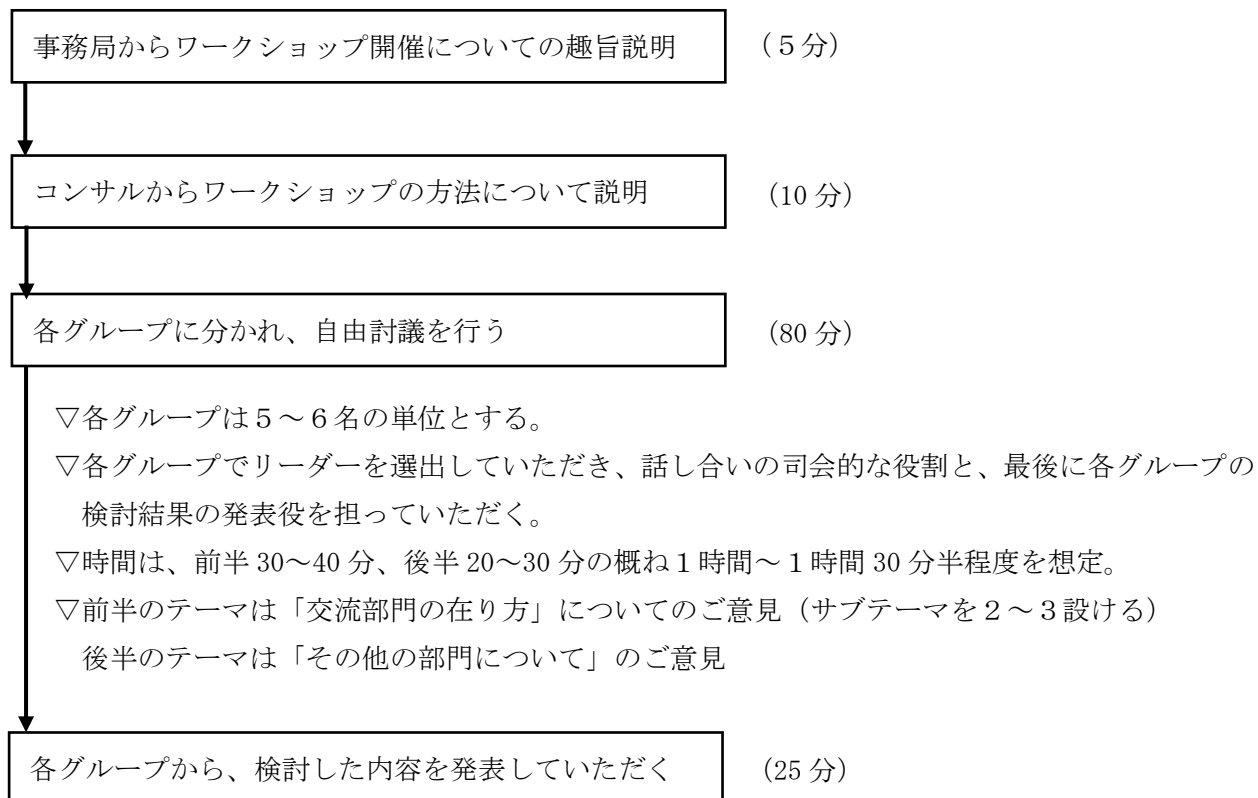
- ◇町のHPや広報で公募する。
- ◇合わせて、各地区や各団体等にも声掛けし、広く住民参加を募る。
- ◇最終的な参加者としては、20～30名程度を想定する。

3. 開催時期

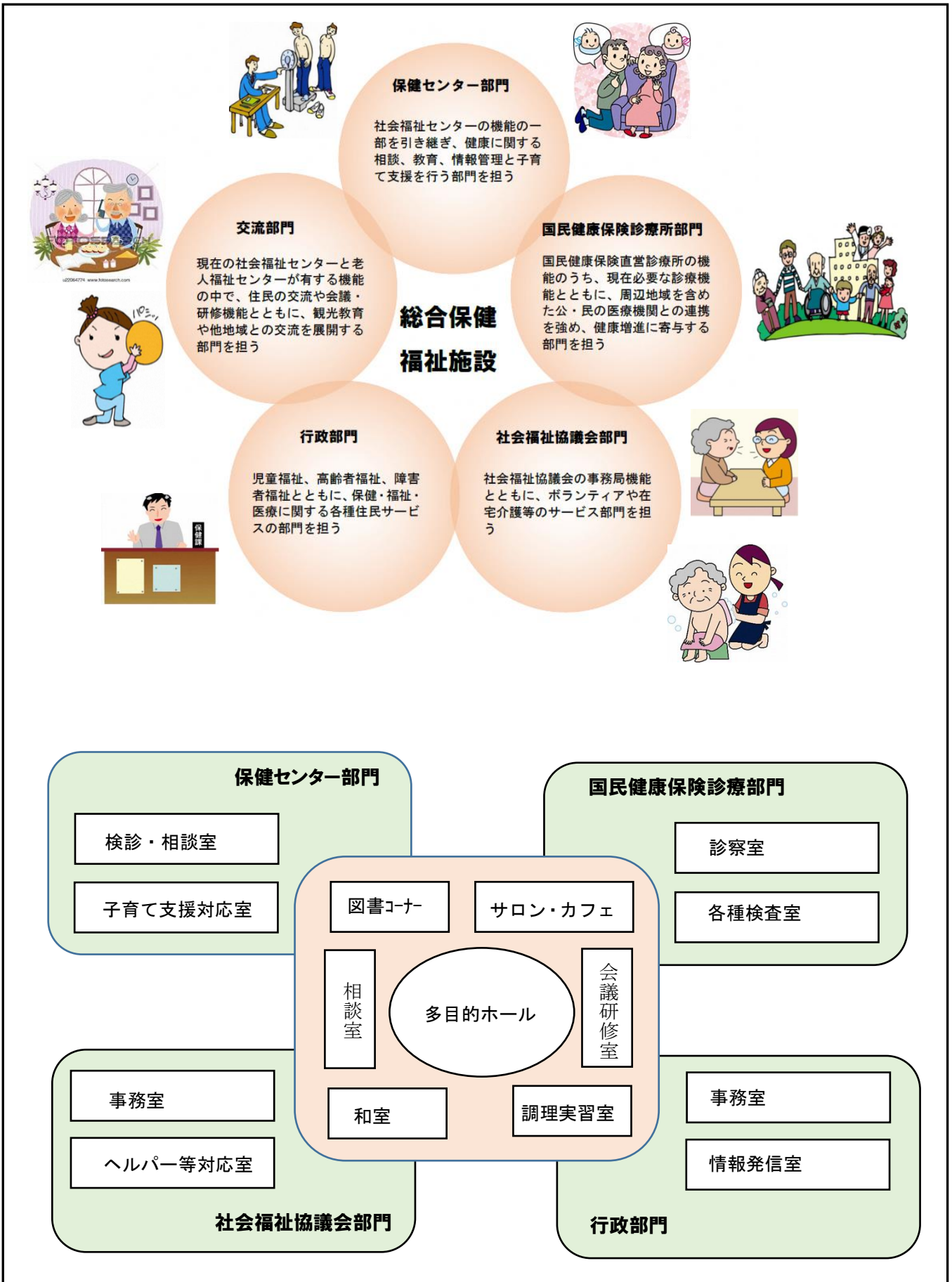
- ◇7月（参加状況をみながら適宜判断）

4. ワークショップの方法

- ◇ワークショップの大きな流れは以下に示すもので、全体の時間を2時間程度と想定する。

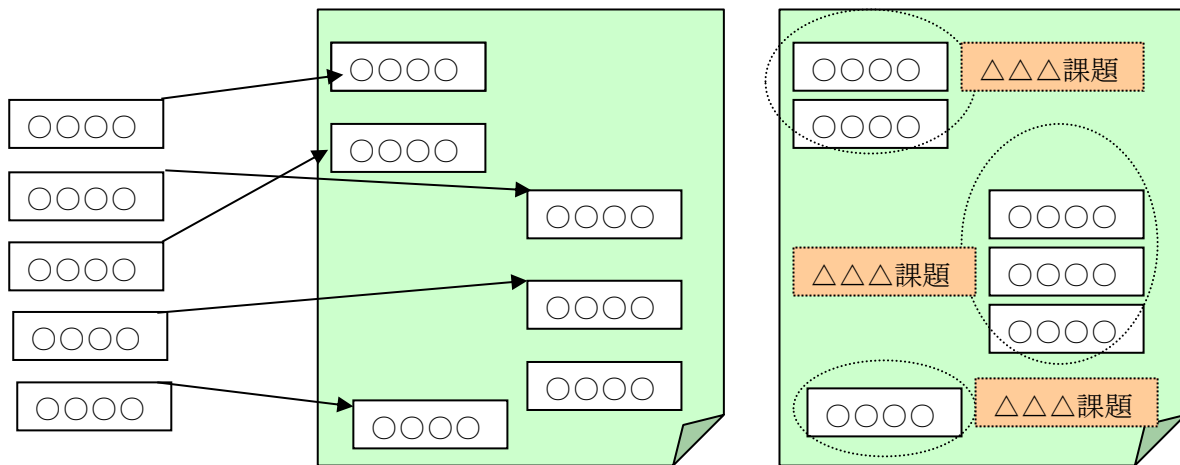


■住民説明用の総合保健福祉施設の整備イメージ



■KJ法によるワークショップのイメージ

【付箋への書き込み】 → 模造紙への張り込み → 【一定のグルーピング化】



〇〇町によるワークショップ議論のグループ化例

施設	自治会	高齢者	ふれあい コミュニティー	仕事
<ul style="list-style-type: none"> 公園の砂場がネコのフンで汚い 公園の砂場が猫のフンでいっぱいでは遊ばせづらい管理は? 育児の自主サークルへの補助金がおりにるの遅くちょっと困っていますもっと早くならないでしょうか 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の対応が心配 地域の役割 まちづくりは自治会から 近隣所につきあいがなくなった 自治会未加入 自治会行事等の参加の少なさ 働き盛りの年代層の街づくり地域づくりへの積極的参加を計る ボランティアグループの結成を お友達づくりがむづかくなってきた人が多くなっている 自治会活動の活性化を計る 回覧板はひと声かけて! 集まれる場がほしい! 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツイベントに高齢者の参加が少ない 弱者マップ (高齢者を把握しておく) 災害時などに利用 老人クラブに若年者 (60才~70才) が加入しない (少ない) 老人クラブ加入率を上げる為には? 60才以上の高齢者 (老人クラブ未加入者) の把握ができない 高齢者をささえる地域がほしい 認知症もある 生き生きとした老後 (老人パワーの有効活用、ボランティア等) 高齢者が容易に呼び合い支え合える交流活動施設が必要 防災と高齢者 老人クラブの加入率をあげる方法 趣味が合えば仲良くなりた 親しくなりたくない 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活のなかで困った時に住民が孤立しないような支援が必要 (子育て中、高齢者等) どこかに行ったら誰かとしていられるところがあるといいなあ 誰もが気軽にできるコミュニティの場所があるといいなあ 災害、台風、水害、地すべり、等のマップづくりが必要 生活でちょっと困った時に具体的に支援してくれる人が欲しい ひとり暮らしの高齢者等弱者の支援体制 コミュニケーションとれる雰囲気づくり 困った時に誰かに伝えることができる組織的なしくみ 近隣町、あつまれる場がほしい 	<ul style="list-style-type: none"> もちたい (フリー定期的) 異物が不安 (小売店が多い) 歩いて行 商店街が活性化が
交通 バス				
<ul style="list-style-type: none"> 交通 町内を走る手をいざればどこでも止まる 道路がせまいので広くしてほしい 交通が不便で行事参加者が減少する (バスの時刻が空きすぎ) ゆりちゃんバスみたいな町内のみを走るバスがあったらいい 				
子供				
<ul style="list-style-type: none"> 父親が参加する行事 福祉 医療費 環境給付を! 夜の授業参観を! 子ども会や自治会などの支援が必要 (取り組み、組織、経済的など) 医療費の申請をもっとスムーズにできないか 子供会加入者の減少について 				
仕事				
<ul style="list-style-type: none"> 長与町は働く場 (産業) が少ない、そのため若者が定住できない、そのため高齢化が進む 				